

偽嚢胞





偽嚢胞

01 偽嚢胞とは

02 偽嚢胞の代表3つ+1つ

03 偽嚢胞の治療法

04 練習問題

他、関連知識は随時

偽嚢胞とは

病変内壁に裏装上皮を認めない嚢胞

偽嚢胞の代表 3 つ + 1 つ

単純性骨嚢胞

動脈瘤様骨嚢胞

静止性骨空洞

+ 粘液嚢胞（溢出型）

単純性骨嚢胞

- 好発部位：下顎前歯部～下顎角部
- 臨床所見：ほとんどが無症状
- 病変に接する歯牙は生活歯であることが多い。
- 顎骨の膨隆はほとんどみられない。
- 画像所見：帆立貝状の透過像
- 成因：外傷で骨髓内血腫が発生し、液化して嚢胞が発生すると言われている。
- セメント質骨性異形成症を併発する例がある。

- 治療：経過観察 もしくは摘出（搔爬）

動脈瘤様骨嚢胞

- 成因：局所的な循環障害
- 内容物：内容物は血液
- 好発年齢：10歳～20歳
- 臨床症状：しばしば痛みあり、骨の膨隆、歯の病的移動・動揺
- 画像所見：石齦の泡状、蜂の巣状の透過像。CTで水の濃度。
- 治療：顎骨切除 注意：「嚢胞」という名前だが切除
（大量出血の危険があるため自己血輸血が手術時には必要。）

静止性骨空洞

- 画像所見：下顎管より下方の下顎角部に類円形の透過像を認める
- 成因：顎下腺・舌下腺組織、脂肪組織の迷入による偽嚢胞
- 好発：40～60歳の男性
- 臨床所見：無症状
- 画像所見：内容物の確認にはMRIが有効
- 治療：経過観察

偽嚢胞の特徴 まとめ

単純性骨嚢胞

→外傷の既往

動脈瘤様骨嚢胞

→CTで水の濃度 (CT値=約0)

MRI T1強調像で低信号、T2で高信号

静止性骨空洞

→下顎角部、下顎管下方

偽嚢胞の治療法

- 単純性骨嚢胞
 - 外傷の既往・ホ夕テ貝状陰影
 - 経過観察 or 摘出 (搔爬)
- 動脈瘤様骨嚢胞
 - CTで水のdensity、MRIで低信号
 - 区域切除
- 静止性骨空洞
 - 下顎角部、下顎管下方
 - 経過観察 ※静かだから下にいる

粘液嚢胞（溢出型）

粘液嚢胞は
病理組織学的には、ほとんどが溢出型。
溢出型の場合、
裏装上皮はなく、嚢胞壁は肉芽組織や
線維性結合組織からなる。

導管内できるタイプ→停滞型
（裏層上皮がある）

粘液嚢胞の治療法

ランーラ小さい場合→摘出術
大きい場合→開窓療法（副腔形成術）
再発を繰り返す場合は舌下腺摘出術（×顎下腺）



粘液嚢胞（粘液瘤）

治療→摘出して周囲小唾液腺の切除



Blandin-Nuhn嚢胞（前舌腺嚢胞）

治療→摘出

舌の知覚障害が生じやすい



出典： Said Hamed, M., Abdelatty Eid Abdemagyd, H., & Ram Shetty, S. (2018). Oral ranula: report of a case with review of literature.

Besbes, A., Elelmi, Y., Khanfir, F., Belgacem, R., & Ghedira, H. (2020). Recurrent Oral Mucocele Management with Diode Laser. Case Reports in Dentistry, 2020.

Hayashida, A. M., Zerbinatti, D. C., Balducci, I., Cabral, L. A. G., & Almeida, J. D. (2010). Mucus extravasation and retention phenomena: a 24-year study. BMC Oral Health, 10(1), 1-4.

練習問題

50歳男性。定期検診でX線写真上に異常があると言われたとすることを主訴に来院。下顎部の外傷の既往があるという。

治療方針はどれか。1つ選べ。

- a. 摘出
- b. 切除
- c. 経過観察
- d. 梱包療法
- e. 放射線治療

正答：c
ホタテ貝状
外傷



練習問題

10歳の男児。下唇部の腫脹を主訴に来院した。病変は腫脹と消退とを繰り返すという。病変部の写真を別に示す。

適切な治療方針はどれか。1つ選べ。

- a. 開窓術
- b. 摘出術
- c. 梱包療法
- d. 凍結療法
- e. ドレーン挿入



正答 b